
桜と櫻の六年間

愛蔭

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

桜と櫻の六年間

【Nコード】

N6769F

【作者名】

愛蔭

【あらすじ】

桜と櫻の六年間―あらすじ―キンコンカンキンキンコンカンキンコンチャイムの音が鳴り響く。愛風櫻は今日から小学一年生大きな桜の木がいっぱい並んでる。幼なじみの子、初めての子がいっぱい。お友達が居ない櫻。ある、ひとつの、桜の木が、櫻の心の扉を開きます。その、桜の名前は、サクラ。僕は桜の木、櫻ちゃんは外に出るけど、僕の近くでウロウロしているだけ、話しかけられてもすぐ逃げちゃう。恥ずかしがりやなんだね。僕は話しかけられないけど、聞くことは、できるんだよ。本当は、話したいん

だ、――皆と一緒に・・・お話したいんだよ。

梅と櫻の3年間（前書き）

これは主人公櫻と、桜の木、サクラの
6年間の事をかきます。

梅と櫻の3年間

桜と櫻の六年間 登場人物

主人公―愛風 櫻

桜の木―サクラ

星の子―アイ

桜と櫻の六年間くあらすじく

キーンコーンカーンコーン
キーンコーンカーンコーン
チャイムの音が鳴り響く。

愛風櫻は今日から小学一年生

大きな桜の木がいっぱい並んでる。

幼なじみの子、初めての子がいっぱい。

お友達が居ない櫻。ある、ひとつの、

桜の木が、櫻の心の扉を開きます。

その、桜の名前は、サクラ。

僕は桜の木、櫻ちゃんは外に出るけど、

僕の近くでウロウロしているだけ、

話しかけられてもすぐ逃げちゃう。

恥ずかしがりやなんだね。

僕は話しかけられないけど、

聞くことは、できるんだよ。

本当は、話したいんだ、

――皆と一緒に・・・お話したいんだよ。

桜と櫻の六年間第1話…入学…

ざわざわざわ……

教室で、皆騒いでる。

モウ皆ナカヨシさん。

だけど……たった一人、

櫻だけ、ナカヨシさんに

入らない。なんでかな

櫻「はぁ……」

とため息ばかり。

桜（どうしてため息ばかり、つくのかなぁ……）

サクラはいつも、櫻を見ています。

先生「皆さんはじめまして。」

皆「はじめましてー」

先生「1年3組の先生です、お名前は、三浦光子です。よろしくおねがいします」

先生「それでは、今から皆に、自己紹介をしてもらいます。」

櫻「……」

桜（櫻ちゃんは、こういうの、好きじゃないのかな？そろそろ櫻ちゃんの番だ。）

櫻「私の名前は愛風櫻です。宜しくお願いします」

桜（……冷静だね。もう帰りかな？早いね、やっぱり。）

先生「さようなら。」

皆「さようなら」

ザワザワガヤガヤ・・・

櫻「・・・」

トントントントン・・・

長い階段。1階には下駄箱。靴を履いた櫻。

一人、サクラの元へ行く櫻・・・

桜（櫻ちゃんはじめまして、僕はサクラっていうんだ。僕は皆知ってるよって聞こえないか）

櫻「サクラ・・・？」

桜（えっ？聞こえるの？僕の声・・・）

櫻「うん・・・聞こえるよ。サクラを植えた人は、だあれ？」

サクラは、涙を流すように、桜の花びらを散らした。

桜（ごめんね。櫻ちゃん、それは言えないんだ。それにそろそろ、帰りな。）

櫻「分かった。また明日。」

夜、空には沢山の星。大きな星や、小さな星、そして大きな満月、今日はいい天気だね。

入学Ⅱ完Ⅱ

桜と櫻の六年間第2話..僕の声..

夜・・・しんと静か。

桜（そろそろあの子が来るのかな。）

キラーン

「????」「サクラくやつほー遊びに来たよ」

見知らぬ女性、黄色がメイン。

星の子、アイ。星から生まれた星の子。

サクラはその子だけ、話しをする。

桜「今日の入学生、櫻に似てるね。」

アイ「そうだね。それにあの子、サクラと話せるんでしょう?」

桜「うん・・・星の子の血をひいているのかもしれないね。」

アイ「そうだね。」

桜とアイはたくさんお喋りをした。

アイ「そろそろ夜明けだね。じゃーねー」

桜「うん。またね」

そして、休み時間。

櫻「サクラは昨日、アイと話したの?どんな事言ったの?」

桜(みんな櫻にはお見通しか。アイと櫻って似ているよね。)

櫻「そう?」

男1「櫻のやつ、木としゃべってるぜ!」

男2「うっわー木しゃべれないのにねー独り言でちゅの?」

男1・2「アハハハハハ」

サクラは怒ったのか、沢山の花びらを男の顔にぶつけた。

男1・2「なんだこいつ!?にげろ」

櫻「サクラ、ありがとう・・・」

桜(ううん。平気だよ。)

キーンコーンカーンコーン・・・

桜(チャイムがなったね。教室に戻りな)

櫻「うん・・・」

もう5月、櫻にあってから1ヶ月、櫻の身長、少し大きくなった。

サクラの桜はもうない。もうすぐ葉っぱが出てくることです。

サクラはこんな事を思いました。

桜(櫻ちゃんって、きつと可愛くて、純粋な女の子になりそうだな・

・・・)

普通の子は、わからない。櫻とサクラだけの、内緒なのです。
僕の声 Ⅱ 完 Ⅱ

梅と櫻の3年間（後書き）

はじめての原稿します。読んでくれてありがとうございます。はい（

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6769f/>

桜と櫻の六年間

2011年1月20日14時29分発行